

CASBEE-新築(簡易版)2010年版
株式会社ゼンリン テクノセンター増改築工事

使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010
 評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.6)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.4
Q1 室内環境			0.40					3.5
1 音環境		4.0	0.15	-	-			4.0
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-			
1.1.1 室内騒音レベル		3.0	1.00	3.0	-			
2 設備騒音対策		-	-	-	-			
1.2 遮音		5.0	0.40	-	-			
1.2.1 開口部遮音性能	T-2サッシを採用	5.0	0.60	3.0	-			
2 界壁遮音性能	TLD50以上の遮音壁を採用	5.0	0.40	3.0	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-			
1.3 吸音	床と、天井に吸音材料を仕様	4.0	0.20	3.0	-			
2 温熱環境		3.1	0.35	-	-			3.1
2.1 室温制御		3.2	0.50	-	-			
2.1.1 室温		3.0	0.38	3.0	-			
2 負荷変動・遅延制御性		-	-	-	-			
3 外皮性能	外皮性能別紙を参照	4.0	0.25	3.0	-			
4 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-			
5 温度・湿度制御		-	-	-	-			
6 個別制御		-	-	-	-			
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-			
8 監視システム		-	-	-	-			
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	-			
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	-			
3 光・視環境		3.2	0.25	-	-			3.2
3.1 昼光利用		1.8	0.30	-	-			
3.1.1 昼光率		1.0	0.60	3.0	-			
2 方位別開口		-	-	3.0	-			
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	-			
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-			
3.2.1 照明器具のグレア		-	-	-	-			
2 昼光制御		3.0	1.00	3.0	-			
3 映り込み対策		-	-	-	-			
3.3 照度	事務所で750Lx以上を確保	4.0	0.15	3.0	-			
3.4 照明制御	自動照明制御方式	5.0	0.25	3.0	-			
4 空気環境		4.2	0.25	-	-			4.2
4.1 発生源対策		5.0	0.50	-	-			
4.1.1 化学汚染物質	ほぼ全ての部分を対象外、F を採用	5.0	1.00	3.0	-			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
3 ダイオキシン等		-	-	-	-			
4 レジオネラ対策		-	-	-	-			
4.2 換気		3.0	0.30	-	-			
4.2.1 換気量		3.0	0.33	3.0	-			
2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	3.0	-			
4 給気計画		-	-	-	-			
4.3 運用管理		4.0	0.20	-	-			
4.3.1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-			
2 喫煙の制御	全館分煙	5.0	0.50	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			3.7
1 機能性		3.9	0.40	-	-			3.9
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-			
1.1.1 広さ・収納性		3.0	0.33	3.0	-			
2 高度情報通信設備対応	OAフロアによりレイアウト変更に対応	5.0	0.33	3.0	-			
3 バリアフリー計画		3.0	0.33	-	-			
1.2 心理性・快適性		4.3	0.30	-	-			
1.2.1 広さ感・景観	天井高さ2700	4.0	0.33	3.0	-			
2 リフレッシュスペース	自販機、休憩スペース(兼食堂)、喫煙スペースあり	5.0	0.33	-	-			
3 内装計画	パースにより検証、Eco材料や、メンテナンスフリーの材料を積極的に採	4.0	0.33	-	-			
1.3 維持管理		4.0	0.30	-	-			
1.3.1 維持管理に配慮した設計	メンテナンスフリーの材料の採用、床材巻き上げなどといった計画	4.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保	各階、掃除流しのスペースを大きめに確保した計画	4.0	0.50	-	-			
3 衛生管理業務		-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性		3.4	0.31	-	-			3.4
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-			
2.1.1 耐震性		3.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.7	0.33	-	-			
2.2.1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	磁器タイル打ち込み仕様 耐用年数30年	5.0	0.23	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	ビニル床シート、タイルカーペット、ビニールクロス 耐用年数20	5.0	0.09	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水管、排水管耐用年数30年以上	4.0	0.15	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-			

2.4 信頼性			3.8	0.19	-	-	-
1	空調・換気設備	GHPと、EHPを使い分け、非常時に重要度の高い系統を優先運転	4.0	0.20	-	-	-
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	-
3	電気設備	CVCF、非常発電を屋上、あるいは高層階に設置。(浸水の恐れ無	5.0	0.20	-	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	-
5	通信・情報設備	浸水の恐れのない位置に設置	4.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性			3.8	0.29	-	-	3.8
3.1 空間のゆとり			4.6	0.31	-	-	-
1	階高のゆとり	階高さ4.12m	5.0	0.60	3.0	-	-
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.14	4.0	0.40	3.0	-	-
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	-	-
3.3 設備の更新性			4.0	0.38	-	-	-
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	-
2	給排水管の更新性	1階下に更新のためのピットを設置	4.0	0.17	-	-	-
3	電気配線の更新性	EPS、OAフロア部分は、構造材、仕上げ材を痛めず、更新可能	5.0	0.11	-	-	-
4	通信配線の更新性	EPS、OAフロア部分は、構造材、仕上げ材を痛めず、更新可能	5.0	0.11	-	-	-
5	設備機器の更新性	更新用のマシンハッチ有り	5.0	0.22	-	-	-
6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.8
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.0
1 建物の熱負荷抑制		PAL計算による	3.6	0.30	-	-	3.6
2 自然エネルギー利用			3.5	0.20	-	-	3.5
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用	太陽光発電パネルの採用	4.0	0.50	-	-	-
3 設備システムの高効率化		CEC計算による	5.0	0.30	-	-	5.0
集合住宅以外の評価 (ERRによる評価)		ERR=41.4%	5.0	-	-	-	-
集合住宅の評価			3.0	-	-	-	-
4 効率的運用			4.0	0.20	-	-	4.0
4.1	モニタリング	BEMSの採用	5.0	0.50	-	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.6
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-	3.4
1.1	節水	節水コマ及び、擬音装置の採用	4.0	0.40	-	-	-
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			3.6	0.63	-	-	3.6
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.07	-	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.25	-	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.21	-	-	-
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	タイルカーベット、床ビニルシート、陶磁器タイル	5.0	0.21	-	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	OAフロアを採用	4.0	0.25	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.5	0.22	-	-	3.5
3.1	有害物質を含まない材料の使用	内装の接着剤は、有害物質を含まない材料を使用	4.0	0.32	-	-	-
3.2	フロン・ハロンの回避		3.3	0.68	-	-	-
1	消火剤	ハロン消火剤使用無し	4.0	0.33	-	-	-
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33	-	-	-
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率が、一般的な建物よりもやや低い	3.4	0.33	-	-	3.4
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	-
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	-
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.5	0.25	-	-	-
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	-
3	交通負荷抑制	管理用駐車場、駐車場・駐輪場台数を確保、	4.0	0.25	-	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制	分別を実施、有価物の資源改修の実施など	4.0	0.25	-	-	-
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	-
1	騒音		3.0	0.33	-	-	-
2	振動		3.0	0.33	-	-	-
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	-
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	-
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	-
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	-
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	-
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	-
2	曇光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	-